

外国人による観光イノベーション ～ 気づきから発信へ ～

【開催日時】2015 年 12 月 9 日（水）11：00～12：30

【会 場】文教大学湘南キャンパス 6401 教室（6 号館 4 階）

【プログラム】

1. 開会挨拶 海津ゆりえ（文教大学大学院国際学研究科長）
2. ご講演 セーラ・マリ・カミングス氏
（株式会社文化事業部代表取締役、NPO 法人桶仕込み保存会代表理事）
3. フロア・ディスカッション

【シンポジウム概要】

カミングス氏がどのように小布施町の魅力に気づき、それをどのように日本全国の人々に発信をしてきたのか、そのプロセスについて、また、それがどのように現在の里山ビジネスにつながっているのかについてお話いただく。

外国人（女性）として、地域に入り込み、地域文化の伝承と発信を実践されてきた過程で遭遇した様々な壁や課題をどのようにして克服されてきたのか、また、そのような力強い活動を支えたモチベーションは何だったのか、実体験をベースとしたご講演から、地方創生、観光立国日本への示唆を得る機会としたい。

【講師略歴】

ペンシルバニア州立大学卒業後すぐに長野冬季五輪の仕事をするため来日。1998年（株）榊一市村酒造場取締役に就任。小布施を中心に燗瓦や茅葺きの復活、蔵の改装など景観を活かした町づくりをしてきた。町を挙げた「小布施見にマラソン」や月に一度講師を招いて行う「小布施ッション」などのイベント企画も行っている。また、日本の食文化にも興味を持ち、木桶仕込みの復活や、酒蔵を改装したレストラン「蔵部」の設立も行ってきた。

現在、（株）文化事業部を立ち上げ、拠点を小布施から長野市若穂に移し、里山を活かした循環型農業を実現する「かのやまプロジェクト」を企画している。



【お問合せ先】文教大学大学院国際学研究科 山口一美：yamaguch@shonan.bunkyo.ac.jp